

新型コロナウイルスワクチン接種についての注意点(第2報)

2021年4月より、65歳以上の高齢者に対する新型コロナウイルスワクチン接種が始まり、現在は65歳未満の方にも接種券が自治体から配布されるようになってきました。血友病被害被害者の方におきましても、希望をされれば、他の方と同様に、ワクチン接種を受けることができます。なお、接種会場につきましては、各自治体からの案内に従って下さい。

注意点は以下の通りです。

- 広島大学病院(以下、本院)が、かかりつけである方もいらっしゃると思いますが、2021年7月現在、本院には患者さん向けワクチンの納入予定はありませんので、接種を行うことはできません。集団接種会場か地域の開業医で行っていただくことになります。
- ワクチンは筋肉内注射ですから、血腫を起こすことがあります。接種日には、あらかじめ凝固因子製剤の輸注をしておいてください。半減期延長製剤をお使いの方は、当日でなく前日でも結構です。但し、エミシズマブ(商品名:ヘムライブラ)を使用中の患者さんは、不要かも知れません。
- 問診票にはこのような項目があります。

現在、何らかの病気にかかって、治療(投薬など)を受けていますか? 病名: <input type="checkbox"/> 心臓病 <input type="checkbox"/> 腎臓病 <input type="checkbox"/> 肝臓病 <input type="checkbox"/> 血液疾患 <input type="checkbox"/> 血が止まりにくい病気 <input type="checkbox"/> 免疫不全 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ
治療内容: <input type="checkbox"/> 血をサラサラにする薬() <input type="checkbox"/> その他()		

この項目を記載したからといって接種を断られたり、集団接種会場で“かかりつけ医で接種してもらってください”と言われることはないようです。ですから、血が止まりにくい病気 には、チェックを入れてください。免疫不全 については、チェックしなくてもよいです。なぜなら、多くの方はARTにより、免疫は回復しているからです。詳しい病名を尋ねられることはないと思いますが、仮に尋ねられても、申告する必要はありません。

- ワクチン接種の副反応のほとんどが、局所の痛み、発熱、全身倦怠感、頭痛などで、接種後発生し、2、3日続きますが、自然軽快します。あらかじめ解熱鎮痛薬を処方してもらっておいて、症状が強いときに服用してください。
- 重篤な副反応はアナフィラキシー反応ですが、ファイザー製のワクチンで約20万回に1回、モデルナ製ワクチンで約40万回に1回程度と報告されており、またアストラゼネカ製ワクチンでは、100万回あたり約10回の血栓事象が報告されています。いずれも非常に稀であり、ワクチン接種直後に起こるわけでもありません。万が一の対応のために、主治医には接種日をあらかじめ知らせておいていただき、異常があれば速やかに連絡をして指示を仰いでください。

文責 エイズ医療対策室 藤井輝久
作成日 2021年7月8日